4月4日は「もらい湯」記念日

源 敏一さん　もらい湯 取りまとめ役

「もらい湯」は、源さんが「怪しげな団体がボランティアをやっているようだけれど、頑張っているようだから、ウチのお風呂を使ってくれ」と、4月4日に声をかけてくださったことから始まり、それを機に8軒のお宅がお風呂を提供してくださり、2000名以上のボランティアがお風呂に入れてもらいました。多くのボランティアが印象に残っていると話すもらい湯は、地域の方々との交流にもなりました。我々がボランティアに行って、ボランティアをしてもらえるという特別な機会をつくってくださいました。

実はこれ、「ツバキのタワシ」！
全ての登壇者の胸元を飾っていました

皆さん、おばんでございます。東北弁で「こんばんは」という意味です。まずはRQのボランティアの皆さんの活動に敬意を表し、感謝申しあげます。ありがとうございました。

隣町くらいは正常に機能してないと、被災された方は買い物にも行くことができません。そんな考えや仕事もあって、被災地に直接行けないもんもんとしたなかで思いついたのが、ボランティアの人を支える「ボランティアのためのボランティア」です。ボランティアの人を支えることは、間接的に被災地のためにボランティアをすることになるんじゃないか。そう解釈して、もらい湯を始めました。

私の家では350人くらいの方がお風呂に入りました。今では珍しい外のお風呂で、薪で沸かします。水は井戸水です。まるまる天然ということで、雨が降ると井戸の水が濁って、入浴剤を入れたような色になります（笑）。それを喜んでいただいたことを、今、思い出しています。家に来た皆さんには、ノートに一言ずつ書き込んでもらっていますが、これは孫子の代まで代々伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。

（「2011.12.9 東日本大震災 PQ シンポジウム」の記事）

we support!
RQ 市民災害救援センター

「東北に黒船を送ろう！大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』かわらばん
しんぶん
清明朝日

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

ふりかえり企画

RQ活動年表

震災発生から丸一年が経過し、RQのホームページには、震災発生当時からの活動の記録が、壮大な年表になって掲載されています。

（RQトップページ中ほど「RQ活動ブログ」→2012.3.11「RQ活動年表」）

「すけさきた」では、その年表をもとに、これから少しずつ当時を振り返っていくことにしました。

こちらは紙面の都合上、なんとなく淡白な表になってしまいますが、西表での活動もできるだけ書き入れながら、「私たちは震災とどう向き合ったか」という記憶を新たにし、明日につなげる一助としていただけるよう願っております。

東京本部

登米本部から車で10分ほど、6時～7時に一回に3名ずつお世話になったそうです
（RQ東北現地本部ブログ 2011.4.28）

初動・緊急支援期

3/11 震災発生

3/13 視察隊現地入り
東京本部設置（西日暮里・エコセン内）

3/14 支援物資・ボランティア受付開始

3/17 山形県天童市に支援基地開設（モンペル内）

3/18 支援物資配布開始
孤立被災者現地捜索活動開始

3/19 東京の子育てサークル「たねっこ母さん」登場
東京本部の後方支援に参加（11月末まで）

3/20 東北現地本部開設
（宮城県登米市旧鱒淵小学校）

3/21 全国の自然学校で被災者の一時受け入れ開始
西表より黒糖6箱発送

3/23 小泉中学校避難所に簡易シャワー施設
「ひまわりサロン」が開設される

3/26 大型バスによる「温泉送迎」開始

3/28 河北に拠点を構える
西表より黒糖16箱発送

被災者支援と地域交流

4/3 志津川・中瀬町の住人が鱒淵小へ二次避難
西表島「力になれたら！プロジェクト」 フリーマーケット＆チャリティーオークション開催

4/4 登米市米川地区の源敏一さん（現・鱒淵振興会事務局）から「ボランティアにお風呂を提供します」とのお申し出を戴く
西表より黒糖12箱発送

4/5 「もらい湯」はじまる

（次回（穀雨朔日号）に続く）